

# 「やさしさ」の意味変化： 辞書記述に基づく語義分析

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鍵主, 智美 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/17087">http://hdl.handle.net/2297/17087</a>

# 「やさしさ」の意味変化 —辞書記述に基づく語義分析—

経済学部経済学科 3年 鍵主 智美\*

## <概要>

最近の日本の若者は、自分が傷つくことを過度に恐れたり、他人を傷つけることを避けようとしたりする傾向が強いと指摘されることが多い。そのような若者が相手に望むことは、若者向けの雑誌などの調査によれば、「やさしさ」である。ところで、「やさしさ」の意味は、ひとによってその理解に違いがあるようだ。世代間はもちろんのこと、同世代であっても地域間や異性間で異なるようである。地域・性別・世代などによって「やさしさ」の中身の理解に多少のずれがあるにせよ、日本人にとって、とくに若者どうしのコミュニケーションにおいて「やさしさ」が重要視されていることは間違いないだろう。では、「やさしさ」とは基本的にいったいどのようなことを意味しているのだろうか。

本稿では、特に「やさしさ」ということばの理解の仕方が時代によって異なっているという仮説をたて、それを検証するために異なる時代に発行された辞書を利用して調査した。その結果、「やさしさ」ということばの意味は、西暦 1900 年ごろとそのおよそ 100 年後の現在ではかなり変化していることがわかった。その変化の理由は、人間関係の構造的変化に基づくものと推測される。

## <キーワード>

やさしさ、意味変化、辞書、語義分析

---

\* E-mail: kirarara---7starsrealgoldlala@r.vodafone.ne.jp

< 目次 >

1. 序論

1.1. 目的

1.2. 方法と資料

2. 結果

2.1. 1900 年前後の意味

2.2. 2000 年前後の意味

3. 考察

4. まとめ

文献

## 1. 序論

### 1.1. 目的

「できればやさしい人とだけ付き合いたい」、「人にはできるだけやさしく接したい」。最近の日本の若者は、自分が傷つくことを過度に恐れたり、他人を傷つけることを避けようとしたりする傾向が強い (cf. 根本 2005, 森 2008)。大平(1995)によれば、「やさしさ」の意味は変化してきているという。具体的には、「やさしさ」は 30 年ほど前には、相手に同情したり、相手と一体感をもったりすることを意味していたが、現代では、人と接するとき相手に傷つけないように距離をとることを意味するようになってきているのである。また、森(2008)も、現代の「やさしさ」は「人を傷つけないように気をつかう態度やふるまい」という意味に変化してきているということを指摘し、さらに、「やさしさ」は現代ではもっとも優先される対人関係のルールであるとしている。このような意味変化の指摘がなされていることは大変興味深い。この指摘にあるように「やさしさ」という語の意味はほんとうに変化しているのだろうか。

そこで本稿では「やさしさ」の意味変化を調査するため、西暦 1900 年ごろと 2000 年ごろでは「やさしさ」という語が国語辞典でどのように説明されているのか、その歴史的な変化を調査する。意味の変化を調査するために資料としたのは現在から約 100 年前の 1900 年前後に出版された実用国語辞書と西暦 2000 年前後に出版された実用国語辞書である。大平(1995)は出版当時の「やさしさ」とその 30 年前の「やさしさ」とでは意味の違いがあることを指摘しているが、本稿ではもう少し範囲を拡大させ、確実な変化を調べるために、このように調査対象とする時代を 100 年間と広範囲に設定した。これらの実用辞書を利用して「やさしさ」あるいは「やさしい」の意味を比較する。

### 1.2. 方法と資料

西暦 1900 年前後と 2000 年前後での「やさしさ」の意味の変化を調査するために本稿では辞書の語義説明を利用する。

1900 年前後に出版された辞書としては次の 3 冊を取り上げた<sup>1)</sup>。

---

<sup>1)</sup>西暦 1900 年前後に出版された辞書で対象としたものの詳細は次の通りである。

－藤井乙男・草野清民編(1896)『帝国大辞典』三省堂。

- 『日本辞書 言海』(1891)
- 『帝国大辞典』(1896)
- 『日本大辞典 ことばの泉』(1900)

2000年前後に出版された辞書は、大型辞典を3冊と小型辞典を5冊、計8冊を調査した。このように大型・小型の辞書をそれぞれ調査したのは、小型辞典では、大型辞典よりも語句の日常的な表現を積極的にとりあげている可能性があると考えたからである。

大型の辞典で今回調査の対象としたのは次の3冊である<sup>2)</sup>。

- 『日本国語大辞典』(2000～2002)
- 『日本語大辞典』(1995)
- 『広辞苑 第六版』(2008)

小型の辞書で調査対象としたのは以下の5冊である<sup>3)</sup>。

- 『旺文社 国語辞典 第九版』(1998)

---

－落合直文編(1900)『日本大辞典 ことばの泉』大蔵書店。

－大槻文彦編(1891)『日本辞書 言海』。

<sup>2)</sup>西暦 2000年前後に出版された辞書で調査対象とした大型辞典は以下である。

－日本大辞典刊行会編 全20巻(2000～2002)『日本国語大辞典』小学館。

－新村出編(2008)『広辞苑第六版』岩波書店。

－梅棹忠夫ほか編(1989)『日本語大辞典』講談社。

<sup>3)</sup>西暦 2000年前後に出版された辞書のうち調査対象とした小型辞典は以下のとおりである。

－市川孝編(2007)『三省堂現代新国語辞典 第三版』三省堂。

－金田一春彦・金田一秀穂編(2008)『学研現代新国語辞典 改訂第四版』学習研究社。

－松村明ほか編(1998)『旺文社 国語辞典 第九版』旺文社。

－西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫編(2000)『岩波国語辞典 第6版』岩波書店。

－山田忠雄編(2005)『新明解国語辞典 第六版』三省堂。

『三省堂現代新国語辞典 第三版』(2007)

『学研現代新国語辞典 改訂第四版』(2008)

『新明解国語辞典 第六版』(2005)

『岩波国語辞典 第6版』(2000)

以上の辞書を取り上げたのは、西嶋(2007)においてこれらの辞書(小型辞典は除く)を用いて、西暦1900年前後と2000年前後での「丁寧」という語の意味変化を調査しているのもので、その結果を同じく人間関係に関わる「やさしさ」という語の調査結果と比較することが可能になると考えたからである。小型辞典については、できるだけ新しく出版されたものであることや、多くの人によって使用されていることなどを基準に選定した。これらの辞書を対象として、1900年前後に出版された辞書で定義されている「やさしさ」の意味と2000年前後に出版された辞書で定義されている「やさしさ」の意味に変化があるかどうかを調査する。

## 2. 結果

### 2.1. 1900年前後の意味

まず、1900年前後に出版された辞書では「やさしい」という言葉はどのように説明されているかを調査した。結果は次のとおりである(「やさしさ」という見出し語は掲載されていなかった。また、辞書中の説明には「やさし」の意味説明として「恥ずかしい」や「容易だ」を意味する記述もあったが、今回対象とする意味概念とは異なるため割愛する。歴史的仮名遣いであった部分は適宜現代仮名遣いに直した)。

「やさし」

『日本辞書 言海』(1891: p.1029)

(1)優に都雅たり。優美。(2)すなおなり。柔和なり。穏順。従順。

『帝国大辞典』(1896: p.1336)

(1)優美なることをいう。(2)柔和なることをいう。

『日本大辞典 ことばの泉』(1900: p.1401)

(1)みやびなり。風流なり。優美なり。(2)柔和なり。すなおなり。

1900年前後に出版された3冊の辞書で共通している説明語は、「優美」と「柔和」である。2冊に共通しているのは、「すなお」である。したがって、

約 100 年前の「やさし」という語の意味は、「優美」「柔和」であることや「素直」であることということだというのがわかる。

## 2.2. 2000 年前後の意味

次に 2000 年前後に出版された辞書の記述をみると次のようであった（「恥ずかしい」や「容易だ」などの意味もみられたが、先と同じ理由でそれらの意味を説明した文は省略した）。波線による強調は筆者による（以下、同様）。

「やさしい」

『日本国語大辞典』（2000～2002: 第 13 巻, p.93）

- (1) 優美である。優雅である。風雅の心がある。情趣深い。風情がある。
- (2) 本能・衝動などに心をまかせず、己を抑えて、自分の立場にふさわしくふるまう思慮あるさまに対して、他人が心に感じてほめることば。多く優位にある者から用いる。立派である。感心である。殊勝である。けなげである。
- (3) 他人に対して、心づかいがこまやかなさま。思いやりがある。情深い。暖かい心配りがある。
- (4) 人の態度・性格などが従順である。おとなしい。温和である。すなおでものやわらかである。

『日本語大辞典』（1989: p.1978）

- (1) しとやかだ。上品である。優美である。(graceful)
- (2) すなおだ。おとなしい。(gentle)
- (3) 情け深い。親切である。(kind)

『広辞苑』（2008: p.2822）

- (1) 周囲や相手に気をつかって控えめである。つつましい。
- (2) さし向かうと恥ずかしくなるほど優美である。優美で風情がある。
- (3) おだやかである。すなおである。おとなしい。温情である。
- (4) 悪い影響を及ぼさない。
- (5) 情深い。情がこまやかである。
- (6) けなげである。殊勝である。神妙である。

『旺文社 国語辞典』（1998: p.1353）

- (1) 情け深い。思いやりがある。
- (2) 素直でおとなしい。

(3) 穏やかで、しっとりしている。

(4) 優美である。上品で美しい。

『三省堂現代新国語辞典』(2007: p.1309)

(1) 美しく上品である。優美だ。

(2) 思いやりがある。

(3) おだやかでもものしずかである。

『学研現代新国語辞典』(2008: p.1410)

(1) 上品で美しい感じだ。

(2) 素直でおとなしい感じだ。

(3) 親切で情が深いようすだ。思いやりがある。

『新明解国語辞典』(2005: p.1499)

(1) 顔つき・態度などから印象が穏やかで好ましい感じだ。

(2) 相手に対する思いやりや心づかいが十分にある様子だ。

(3) そのものに悪い影響を与えないように配慮がなされている様子だ。

『岩波国語辞典』(2000: p.1281)

細やかで柔らかな感じを与える有様だ。

(1) おとなしく、すなおだ。思いやりがあって親切だ。

(2) 優美だ。

(3) <「…にーだ」の形で、…の所が人以外のものをさす場合>荒れなどに悪い作用のあとを生ぜず、品もいい。

「やさしさ」

『日本国語大辞典』(2000～2002: 第13巻, p.93)

(1) 優雅なこと。優美なこと。また、その度合。

(2) けなげであること。殊勝であること。

(3) 思いやりの深いこと。こまやかな心づかいをしていること。また、その度合。

2000年前後に出版された辞書では「やさしい」という語には、その約100年前の1900年前後に「やさし」という語が意味した「優美」、「素直」、「柔和」という意味のほか、いくつか新しい意味が加わっていることがわかる(波線を施してある部分を参照)。ほとんどの辞書で共通して新しく加わったのは、「情け深い」、「思いやりがある」などである。また、「親切」ということばは『日本国語大辞典』、『学研現代新国語辞典』、『岩波国語辞典』の3冊だけでしか見られないが、「情け深い」、「思いやりがある」と関連が深い語で

あろう。さらに『日本国語大辞典』と『広辞苑』では、「けなげである」、「殊勝である」などが、『広辞苑』、『新明解国語辞典』、『岩波国語辞典』では「(対象に対して)、悪い影響を与えないこと」を表す意味も加わっている。そして最近出版された『広辞苑』1冊だけではあるが、「周囲や相手に気をつかって控えめである」という意味も加わっている。

このことから、「やさしい」という語の意味は100年前と現在とでは、新しい意味が加わっているという点で確かに変化しているといえる。

### 3. 考察

1900年前後と2000年前後とでは、「やさしさ」ということばの示す意味は、「なさけ」、「おもいやり」、「しんせつ」などの概念が新たに加わっているという点で変化していることがわかった。つまり、1900年前後では「やさしい」ということばは「優美」、「素直」、「柔和」という意味をもっていたが、2000年前後ではそれらに加えて、「なさけ」、「おもいやり」、「しんせつ」などの意味も持つようになってきている。そして、一部の辞書では「けなげである」、「殊勝である」や「悪い影響を与えないこと」、さらに「周囲や相手に気をつかって控えめである」などの意味もあるとされている。

ほとんどの辞書で共通して「やさしい」の新しい意味として加わった、「なさけ」、「おもいやり」、「しんせつ」、の3つのことばの意味をそれぞれ、西暦2000年前後に出版された8冊の辞書で調べてみた(調査の結果は本稿末の<参考資料1>に掲げておいた)。その結果、『日本語大辞典』の中で説明される「しんせつ」だけを除いて、今回調査した他の全ての辞書では、「しんせつ」や「なさけ」ということばは「おもいやり」ということばを使って、あるいは「おもいやり」ということばを直接使わない場合でも、「相手の身になって(同情的に)考える」という「おもいやり」とほぼ同義のことばで説明されることが分かった。「なさけ」、「おもいやり」、「しんせつ」などの語彙は共通して、相手の心理状態に関連する意味を持つものであるようだ。また、「おもいやり」や「しんせつ」には相手への配慮が行き届いていることや相手の身を察するといったような意味があることも分かった(詳しくは<参考資料1>を参照のこと)。つまり、2000年前後では、相手の心理について推し量って、配慮ができるということや「やさしい」と表現するようになったといえる。この「やさしさ」は大平氏の言う従来の「やさしさ」(相手に同情したり、相手と一体感をもったりすること)であろう。なぜなら、「おもいやり」や「なさけ」の辞書的意味も、大平氏のいう従来の「やさしさ」の中身も、

「同情したり、相手と一体感をもつ」といったことばで説明されるからである。

では、大平(1995)や森(2008)が指摘したように「やさしさ」の意味が「人と接するときに相手を傷つけないように、距離をとること・気をつかう態度やふるまい」へ変化しているとするなら、それは辞書ではどのように反映されているのだろうか。筆者は『広辞苑 第六版』(2008)の「周囲や相手に気をつかって控えめである」という説明がそれを反映しているのではないかと考える。「控えめ」であるということは、「遠慮がち」、「謙虚」、であることといえる。これらの語には積極的に「前へ」ではなく、むしろ「一步下がったところで」というような消極的な要素がある。この「一步下がった」という部分が、新しい「やさしさ」に見られる「距離をとる」ということと共通していると考えるのである。

しかし、『広辞苑 第六版』(2008)の「周囲や相手に気をつかって控えめである」の使用例文の典拠となっているのは大鏡(12世紀)であった。ということは、少なくとも12世紀には「やさし」ということばは「周囲や相手に気をつかって控えめである」という意味を持っていたといえる。1900年前後に出版された辞書では「周囲や相手に気をつかって控えめである」という意味は掲載されていなかった。このことから言えるのは12世紀から20世紀の間に「やさしい」ということばから「周囲や相手に気をつかって控えめである」という意味は一度消滅してしまったということであろう。

では、再び「やさし(い)」ということばが「周囲や相手に気をつかって控えめである」という意味を持つようになったのはいつごろからなのであろうか。それを確かめるために『広辞苑 第一版』(1955)、『広辞苑 第二版』(1969)、『広辞苑 第三版』(1983)、『広辞苑 第四版』(1991)、『広辞苑 第五版』(1998)のそれぞれにおいて「やさし(い)」の意味を調べた(詳しくは<参考資料2>を参照のこと)<sup>4)</sup>。その結果、「やさし(い)」という語の説明として「周囲や相手に気をつかって控えめである」という記述が見られるようになったのは、『広辞苑 第三版』(1983)からであることがわかった。それ以降から現在まで「周囲や相手に気をつかって控えめである」という説明は継続して使われ

---

4) 「やさしさ」の意味を『広辞苑』(第一版～第五版)で調べた。

- 新村出編(1955)『広辞苑 第一版』岩波書店。
- 新村出編(1969)『広辞苑 第二版』岩波書店。
- 新村出編(1983)『広辞苑 第三版』岩波書店。
- 新村出編(1991)『広辞苑 第四版』岩波書店。
- 新村出編(1998)『広辞苑 第五版』岩波書店。

ている。

しかし、「周囲や相手に気をつかって控えめである」という記述は 2000 年前後の辞書 8 冊(注 2 および注 3 を参照)中 1 冊の辞書(『広辞苑 第六版』)でしか確認できなかった(ただし、『日本国語大辞典』では「やさしい」という語句の意味説明が「恥」「優」「易」の 3 つに分けて書かれているのだが、「恥」の意味説明に「周囲や相手に心づかいして、ひかえめにふるまうさま。」という記述があった)。そのため、「やさしい」を「人と接するとき相手に傷つけないように」すること、と解釈するのは、少なくとも辞書の中ではまだ一般的ではないかもしれないが、その萌芽は認められたといってもよからう。

対人行動を評価する語彙の意味変化を扱ったものには、丸井(2006)によると、Hermanns の“freundlich” (英語の“friendly”)の意味変化の報告がある。また、西嶋(2007)は「丁寧」の意味変化について扱っている。これらの研究によると、“freundlich”と「丁寧」は両者ともに、個人的な関係での評価の際に使われていた表現であったが、現在ではより広く形式的な場面で使用されるようになってきているということである。そのように語句の意味が変化している背景には、人間関係が構造的に形式化に向かって変化していることがあるとされる (cf. 丸井 2006)。

「やさしい」の意味も人間関係の構造的な変化によって変化してきていると考えられる。根本(2005)は、傷つきやすさの根底には自己無価値感があるとし、近年傷つきやすい若者が増えているのは、自己価値感すなわち自分自身に価値があるという実感が育ちにくい社会構造のためであるとしている。核家族が増加し子育てがマニュアル化(子どもに子育てを合わせるのではなく、子どもをマニュアルに合わせる)したことや、養育の競争化が進んだことによって、自己価値感が育ちにくい社会になっているというのである<sup>5)</sup>。このような社会構造の変化を背景に「やさしい」の意味も「人と接するとき相手に傷つけないように距離をとること」に変化してきていると考えられる。

#### 4. まとめ

これまで見てきたように、「やさしさ」(「やさしい」)の意味は 1900 年前後と 2000 年前後の辞書記述を比較した結果、変化してきているということ

---

<sup>5)</sup> 根本橋夫『傷つくのがこわい』(2005) 第三章より

が明らかになった。また、大平(1995)や森(2008)の指摘した「やさしさ」の意味変化もまだ一般的とはいえないが、辞書上でも一部確認することができた。

今回の調査では、辞書の中で「やさしさ」「やさしい」ということばがどのように定義されているのかを分析するにとどまった。今後は実際に人々が現在「やさしさ」「やさしい」ということばをどのような意味で使っているのかを調査していくと必要である。

## 文献

- －丸井一郎(2006)『言語相互行為の理論のために「当たり前」の分析』三元社.
- －森 真一(2008)『ほんとはこわい「やさしさ社会」』筑摩書房.
- －根本橋夫(2005)『傷つくのがこわい』文藝春秋.
- －西嶋義憲(2007)『「丁寧」の意味変化－コミュニケーション行動評価概念の異文化間比較のために－』．In:『金沢大学経済学部論集』第27巻第2号, 67-80.
- －大平健(1995)『やさしさの精神病理』岩波書店.

<参考資料 1>

以下は 2000 年前後の辞書で新しく加わった「やさしい」の意味と関連があると思われる語について詳しく調べた結果である。

「おもいやり」

『日本国語大辞典』(2000～2002: 2 巻の p.1412)

- (1) 推察。想像。思慮分別。
- (2) 人の身の上や立場、心情などについての察し。察していたわりの気持ちを持つこと。また、その気持ち。

『日本語大辞典』(1989:p.282)

- (1) 思いやること。同情。

『広辞苑』(2008: p.428)

- (1) 思いやること。想像。
- (2) 気をつくこと。思慮。
- (3) 自分の身に比べて人の身を思うこと。相手の立場や気持ちを理解しようとする心。同情。

『旺文社 国語辞典』(1998:p.184)

- (1) 人の身になって心を配り、いたわること。また、その気持ち。

『三省堂現代新国語辞典』(2007: p.162)

- (1) [いたわる気持ちで] 相手の立場や気持ちを考えること。

『学研現代新国語辞典』(2008: p.203)

- (1) 相手の気持ち・立場を考えること(心)。同情すること。

『新明解国語辞典』(2005: p.202)

- (1) 相手の気持になって考えること(気持)。同情すること(気持)。

『岩波国語辞典』(2000: p.162)

- (1) 同情すること。その気持。

「おもいやる」

『日本語大辞典』(1989:p.282)

- (1) おしはかる。推測する。(guess)
- (2) 相手の心になって考える。(considerate)
- (3) 同情する。(sympathize)

『三省堂現代新国語辞典』(2007: p.162)

- (1) [いたわる気持ちで] 相手の立場や気持ちを考える。
- (2) [「思いやられる」の形で] [悪い状態になりそうで] 心配される。

『学研現代新国語辞典』(2008: p.203)

- (1) [遠くはなれている人や物事などに] 考えをおよぼす。思いをはせる。
- (2) 相手の気持ち・立場を考える。同情する。
- (3) <「-られる」の形で> [悪い状態になりそうで] 心配される。案じられる。

『新明解国語辞典』(2005: p.202)

- (1) 相手の置かれた立場に立ってその心中などを同情的に考える。

『岩波国語辞典』(2000: p.162)

心をそこまで働かせる。

- (1) 遠くはなれている人や物事に思いをはせる。
- (2) 他人の身の上や気持ちをおしはかって、いたわる。同情する。
- (3) <「-やられる」の形全体で> 気がかりである。心配である。

「しんせつ」

『日本国語大辞典』(2000～2002: 7巻の p.645)

- (1) (深切) 深くはなはだしいこと。特に心入れの深いこと。心の底からであること。また、そのさま。
- (2) 他人への心情で、思いやりのあること。特に相手のために配慮の行き届いていること。また、そのさま。

『日本語大辞典』(1989:p.1004)

- (1) 情が厚く、丁寧なこと・さま。(kindness)
- (2) 丁寧で行き届いていること・さま。(kindness)

『広辞苑』(2008: p.1454)

- (1) 深く切なること。痛切。
- (2) 人情のあついこと。親しくねんごろなこと。思いやりがあり、配慮の行き届いていること。

『旺文社 国語辞典』(1998:p.688)

- (1) 相手に対して思いやりがあつてやさしいこと。また、そのさま。

『三省堂現代新国語辞典』(2007: p.623)

- (1) 相手のためになるように、思いやりの心をもってつとめること。

『学研現代新国語辞典』(2008: p.709)

- (1) [利害を考えず] 相手の身になつてつくすこと。人情の厚いこと。
- (2) 行き届いていて、丁寧であること。

『新明解国語辞典』(2005: p.753)

(1) 弱い立場にある人や困った目にあっている人の身になって、何かをしてやったり やさしく 対応したりすること(様子)。また、その態度。  
『岩波国語辞典』(2000: p.635)

- (1) 思いやりが深く、ねんごろなこと。好意をもって人のためにあれこれと計ってやること。

「なさけ」

『日本国語大辞典』(2000～2002: 10 巻の p.148)

- (1) 人間としての感情。人間味のある温かい心。人情。情愛。  
(2) 他にはたらきかける感情、あわれみ、思いやりなど。好意。親切。  
(3) 情趣・風流を理解する洗練された心。  
(4) ふぜい。おもむき。情趣。趣味。

『日本語大辞典』(1989:p.1445)

- (1) 人情。思いやり。同情。(sympathy)  
(2) めぐみ。慈悲。(mercy)  
(3) 異性を思う心。愛情。恋心。情事。いろごと。

『広辞苑』(2008: p.2084)

- (1) 人間としての心。感情。  
(2) 他をあわれむ心。慈悲。人情。思いやり。  
(3) みやびごころ。風流心。  
(4) ふぜい。興趣。  
(5) 男女の情愛。恋情。恋ごころ。情事。  
(6) 義理。  
(7) 情にすぎること。お慈悲。おなさけ。

『旺文社 国語辞典』(1998:p.1008)

- (1) 哀れみ。思いやり。人情。  
(2) 男女の愛情。  
(3) ものの情趣がわかる心。風流心。  
(4) 風情。味わい。

『三省堂現代新国語辞典』(2007: p.940)

- (1) 思いやりの気持ち。  
(2) 男女の愛情。恋ごころ。

『学研現代新国語辞典』(2008: p.1049)

- (1) 他人をあわれむ心。思いやりの心。  
(2) 異性間の愛情。恋心。

『新明解国語辞典』(2005: p.1105)

(1) (利害・打算を離れ)困っている(弱い立場にある)人に同情して、援助・激励する親切心。

(2) (実利を離れ)自然の景物の趣、芸術作品の良さなどを理解する心。

『岩波国語辞典』(2000: p.942)

(1) 思いやりのこころ。人情。あわれみ(の心や行い)。

(2) 男女の愛情。恋心。

<参考資料 2>

以下は『広辞苑』（第一版～第六版）で「やさしい」の意味を調べた結果である。

「やさしい」

『広辞苑 第一版』 p.2135

- (1) 身も瘦せるように感じる。恥かしい。
- (2) さし向かうと恥かしくなるほど優美である。
- (3) すなおである。おとなしい。温順である。
- (4) 情深い。親切である。
- (5) けなげである。殊勝である。神妙である。
- (6) たやすい。容易である。
- (7) わかりやすい。

『広辞苑 第二版』 p.2218

- (1) 身も瘦せるように感じる。恥かしい。
- (2) さし向かうと恥かしくなるほど優美である。
- (3) すなおである。おとなしい。温順である。
- (4) 情深い。情がこまやかである。
- (5) けなげである。殊勝である。神妙である。
- (6) (「易し」と書く。)①たやすい。容易である。②わかりやすい。

『広辞苑 第三版』 p.2404

- (1) 身も瘦せるように感じる。恥かしい。
- (2) 周囲や相手に気をつかって控えめである。つつましい。
- (3) さし向かうと恥かしくなるほど優美である。優美で風情がある。
- (4) すなおである。おとなしい。温順である。
- (5) 情深い。情がこまやかである。
- (6) けなげである。殊勝である。神妙である。
- (7) (「易しい」と書く。)①簡単である。容易である。②わかりやすい。

『広辞苑 第四版』 p.2572

- (1) 身も瘦せるように感じる。恥かしい。
- (2) 周囲や相手に気をつかって控えめである。つつましい。
- (3) さし向かうと恥かしくなるほど優美である。優美で風情がある。
- (4) おだやかである。すなおである。おとなしい。温順である。
- (5) 情深い。情がこまやかである。
- (6) けなげである。殊勝である。神妙である。

(7)(「易しい」と書く)①簡単である。容易である。②わかりやすい。

『広辞苑 第五版』p.2678

(1)身も瘦せるように感じる。恥かしい。

(2)周囲や相手に気をつかって控えめである。つつましい。

(3)さし向かうと恥かしくなるほど優美である。優美で風情がある。

(4)おだやかである。すなおである。おとなしい。温順である。

(5)悪い影響を及ぼさない。

(6)情深い。情がこまやかである。

(7)けなげである。殊勝である。神妙である。

(8)(「易しい」と書く)①簡単である。容易である。②わかりやすい。

『広辞苑 第六版』p.2822

(1)身も瘦せるように感じる。恥かしい。

(2)周囲や相手に気をつかって控えめである。つつましい。

(3)さし向かうと恥かしくなるほど優美である。優美で風情がある。

(4)おだやかである。すなおである。おとなしい。温情である。

(5)悪い影響を及ぼさない。

(6)情深い。情がこまやかである。

(7)けなげである。殊勝である。神妙である。

(8)(「易しい」と書く)①簡単である。容易である。②わかりやすい。